

平成 23 年度近畿ブロッククラブミーティング2011開催報告

- 日 時： [第1日目] 平成 23 年 12 月 3 日（土） 10:45～17:00
[第2日目] 平成 23 年 12 月 4 日（日） 10:45～17:00
- 会 場： 京都府スポーツセンター大会議室（京都テルサ東館3階）
- 内 容： [1日目] (1) 講演①
(2) 第1部 活動発表～創設支援1年目～
(3) 第2部 活動発表～創設支援2年目～
(4) 講演②
(5) 第3部 テーマ別グループディスカッション
(6) 全体会
- [2日目] (1) 第1部 パネルディスカッション
(2) 第2部 ブース巡り
(3) 全体会

【概 要】

1日目は創設支援1・2年目のクラブ関係者ら総勢61名が参加し、講演や進捗状況の発表、テーマ別グループディスカッションを通じて、クラブ創りの問題点や課題解決策を探った。

2日目はt o t oの自立支援クラブやクラブマネジャー設置支援クラブ、府県総合型クラブ連絡協議会加盟クラブの関係者ら総勢112名が参加し、パネルディスカッションやブース巡回によって、さらなる充実発展のヒントを持ち帰った。



【1日目／12月3日（土）】

【(1) 講演①】

■テーマ／スポーツ基本法制定と総合型クラブの関わり

■講 師／松田雅彦氏（中央企画班長）

スポーツ基本法には、前文・基本理念に「スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは“全ての人々の権利”と明記されほか、「国や地方公共団体の責務」「スポーツ基本計画や地方スポーツ推進計画の策定」「スポーツ施設の整備」「学校施設の利用」「体育指導委員からスポーツ推進委員への名称変更とスポーツの推進のための事業の実施に係る連絡調整が追加された」ことなどを解説。基本理念の実現の「しくみ」のひとつが「総合型クラブ・システム」である。また、ス



ポーツの力、新しい公共、市民推進運動としてのクラブ、新しい公共を支える組織としての総合型クラブのあり方について、複数のクラブ設立のパターンを示した。最後に「今は数十人の会員でも10年後は10倍の会員になるクラブ」と「今は数百人の会員が10年後もそんなに増えないクラブ、皆さんどちらがいいと思いますか」と参加者に問いかけ、「ゆっくり・じっくり取り組みましょう」と締めくくった。

【(2) 第1部 活動発表～創設支援1年目～】

「広報活動に力を入れている」「財源や施設の確保に悩んでいる」「事務局体制の強化が課題である」「人集めが大きな課題」「広報紙をポスティングしても反応がない」「学校を通じて住民アンケートを実施した」などの発表があった。



【(3) 第2部 活動発表～創設支援2年目～】

「人気のあるウォーキングを中心に活動している」「台風で施設が被害に遭って使えない」「クラブマネジャーを確保した」「自然資源を活用したプログラムに地元の反対の声があるので隣町で活動している」「ホームページを立ち上げた」「市の広報紙に行事の案内を入れてもらっている」などの発表があったほか、すでに設立したクラブからは「スポーツ系と文化系プログラムを取り入れている」「事務所も確保できた」「海外旅行を計画している」「しかし、中高生やお年寄りの年代層へのアプローチが課題」などの発表があった。



【(4) 講演②】

■テーマ／何のために総合型クラブを創るのか、原点を振り返ろう！

■講師／中阪 雅則氏（地方企画班員）

3つのクラブの立ち上げに深く関わられ、それぞれのクラブの概要や設立に至った経過や特徴、理念や方向性などを詳細に説明。目的と手段の違いを解説され、理念づくりをしながらクラブ創りに取り組んだ方がいいですよと語った。最後に「みんなの夢、やりたい事、やらなければならない事のかたちにしよう！」。そのためには『「意見が出やすいシステム」「話し合えるシステム」「運営スタッフが辞められる（休憩できる）仕組みづくり」などが大切で、満足感や達成感を共有しましょう』と語った。



【(5) 第3部 テーマ別グループディスカッション】

希望したテーマごとに少人数のグループに、そして希望の多かったテーマは2つに別れ、進行役や助言者は府県体育協会担当者やクラブ育成アドバイザー、地方企画班員などが務めた。



- 【A・Bグループ】 会費や参加料の設定、財源確保などクラブの資金に関するテーマ
- 【Cグループ】 プレイ施設やクラブハウスなど活動拠点に関するテーマ
- 【D・Eグループ】 会員の確保、スタッフの確保、理念共有などに関するテーマ
- 【Fグループ】 行政や既存団体等との連携強化に関するテーマ

【(6) 全体会】

グループでの話し合いの内容や感想などが披露され、「色々な人が集まって話をしたら集まった人の数だけの方法があると思った」「原価志向が大事だと思った」「夢を持って楽しいことをしていきたい」「行政への働きかけをしなければ」「出前講座など、できることからやりたい」「イベントに集まった人たちに話をしていきたい」「町の広報紙を活用したい」「ティッシュに広告を付けて配布したい」「チラシの工夫が必要」「ホームページを活用して会員を確保したい」などの発表があった。

○ ▼ ○ ▼ ○ ▼ ○ ▼ ○

[2日目／12月4日(日)]

【(1) 第1部 パネルディスカッション】

■テーマ／行政との連携について ～ヒト・モノ・カネ・広報～

テーマを設定した経緯や趣旨が説明された後、自己紹介が行われ、コーディネーターの問いかけにそれぞれの立場でパネリストが答えるカタチで行なわれた。

○久泉昭人氏（宇治市教育委員会/京都府宇治市）

東宇治スポーツクラブの設立に行政職員として関わった。行政の補助金はないが、施設は優先的に確保している。使用料は半額。クラブの課題はスタッフの確保。



○能田達三氏（NPO法人加古川総合スポーツクラブ/兵庫県加古川市）

クラブの立ち上げ時には行政職員2名が関わった。1年目に5クラブを同時に立ち上げようとした。行政の財政支援は受けないことを初めから確認。1つのクラブに加

入したら他クラブにも参加できるようにした。行政の補助金はないが、すべての小学校区にクラブハウスがある。

○三古 剛氏（フォー遊クラブ/京都府長岡京市）

クラブ名は公募で命名。長岡第四小学校区の「四＝フォー」と「あなた＝ユー＝遊」との意味がある。自主運営しているが、行政の後方支援もある。クラブハウスは行政が小学校敷地内に新築してくれた。行政との関係では、何度も何度も働きかけを続けることが大切である。

○九條親道氏（湖南市ちよいスポクラブ/滋賀県湖南市）

クラブの事務局は、市の総合体育館の中に机一台を置かせてもらっている。行政職員も会費を払って会議に出席。広報紙には目立つ所に記事を入れてもらうようにしている。会費はなるべく会員に還元するようにしている。

□コーディネーター／西山正文氏（京都府クラブ育成アドバイザー）

「人が人をつくり」「人がモノをつくる」。行政との連携の中で、「モノ」が大事ではなかったらどうか。特に「小中学校施設の活用が課題であり、このことを行政の責務として取り組んでほしい」とまとめた。

【(2) 第2部 ブース巡り】

特色あるブースを8つ設置し、聞きたい4つのブースを巡り、発表者の説明と質疑応答によってクラブが抱える問題や課題解決のヒントを探った。



- ①ゼロからのスタートで1千万を超える予算に3年で成長したクラブ ＝sproutスポーツクラブ和歌山/和歌山県和歌山市＝
- ②月会費500円でもプログラムが充実のアットホームなクラブ ＝箕面東コミュニティスポーツクラブ/大阪府箕面市＝
- ③町内総合スポーツ施設の指定管理を受け、町内スポーツ事業の中心的役割を担う自主財源豊富なクラブ ＝NPO法人スポーツクラブ21はりま/兵庫県播磨町＝
- ④人気講師は、クラブマネジャー！ ＝NPO法人レインボークラブ/滋賀県甲賀市＝
- ⑤独自の会費システム「カフェテリアスクール」方式で受益者負担を浸透させたクラブ ＝特定非営利活動法人長野総合スポーツクラブ/大阪府河内長野市＝
- ⑥自らスタッフを育て、クラブを充実させているクラブ ＝樫原健康スポーツクラブKKS C/奈良県樫原市＝
- ⑦指導者と事務局合わせて47名が活躍するクラブ ＝向日市ワイワイスポーツクラブ/京都府向日市＝
- ⑧会計処理や事務処理について ＝日本スポーツ振興センター＝



【(3) 全体会】

ブース発表者が質疑内容や感想等を発表。「予算に関する質問が多かった」「指導者の謝金はいくらか」「会場は優先的に使えるのか」「指定管理の進め方は?」「今後のクラブのあり方は?」「他クラブとの連携は?」「コーチは何人?」「事務局スタッフ数は?」「公募で人材を集めている」「ボランティアで先行き大丈夫か」「少年団とバッティングしないか」などのほか、会計や事務処理のブースでは「旅費や通信費等の対象経費の質問が多かった」「申請書類を簡素化して」などの要望も寄せられた。



【まとめ】

「府県の枠を超えたネットワーク」を合言葉に、近畿地方の人的関係づくりも併せて開催の趣旨とした。「府県の枠を超えて」は、「市町村や地域の枠を超えて」に置き換えても同じで、同じ器の中で物事を考えても新たな解決策やヒントが出にくいことが多々ある。そういう意味から、いつもとは違う人たち、他市町村や他府県の人たちと話しをすることで、「今まで持ち合わせていなかったヒントを持ち帰っていただく」というねらいもあった。

両日とも、熱心にメモをとる姿や和やかな雰囲気の中活発な話し合いも交わされた。また、会場には台風12号で大きな被害を受けた奈良県・和歌山県への復興支援の募金箱も設置し、贈呈セレモニーでは多額の募金にどよめきと大きな拍手が上がった。

(報告：近畿ブロック地方企画班 立野誠次 入江美智代 田里千代 中阪雅則)